

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五六（公衆）〇四七二二七二〇七

郡司とめさんを囲む座談会

感想文

五月十七日（土）夜、七時より天台宿舍集会所において、三里塚・芝山連合空港反対同盟婦人行動隊長の郡司とめさんに来ていただいて、婦人行動隊の過去二〇年の歩み、家族会のあり方のお話をうかがいました。成田の家族会より、役員のアさん、Bさん、それに船橋からCさんと、皆さん遠いところ参加して下さいました。感謝しております。

闘う中にこそ

血のかよったぬくもりが

最初に家族会担当の桜沢氏よりあいさつを兼ねて国鉄の近況をうかがいました。広域配転・企業人養成・十一月ダイ改・勤務評定の内容のお話でした。が、聞いているうちに、何か、あまりのひどさに情けなくなってきました。家族のために毎日働いている職場でこのような待遇を受けているのかと思うとこれは人間の扱いではないと思います。まるで調教されているモンキーと同じではありませんか。こんなに侮辱されてもじつとガマンし耐えているのはなぜなのかと問い正したくなります。何のために労組があるのかということです。その点、闘っている千

闘いを支え、生活の軸を担って20年

三里塚婦人行動隊長

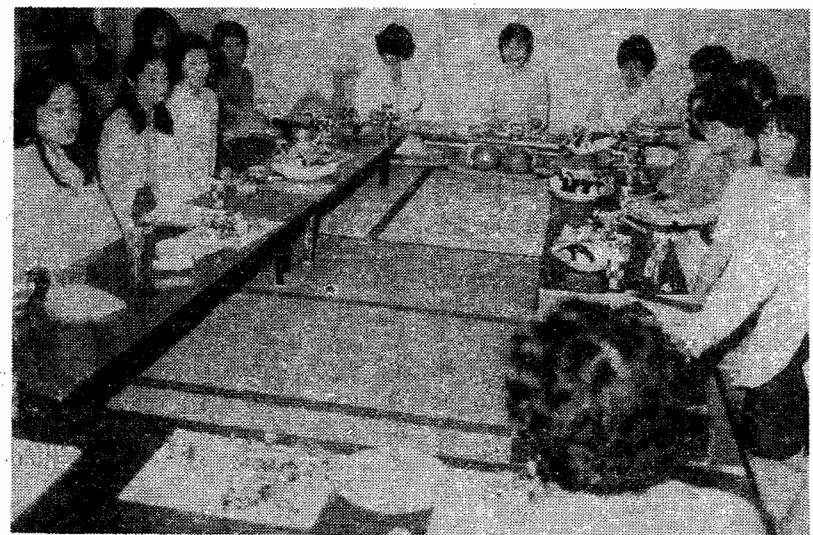
郡司とめさん 家族会を囲む

葉動労は、人間の血のぬくもりを感じ、ほっとさせられます。管理者より現場で働いている労働者の方がずっと数的には多いのですから、それこそ一丸となつて戦えば勝利の道は開けてくると思うのは私の甘い考えなのでしょう。

「ハンペンテ」のおはなし

郡司さんのお話は、戦う婦人の二〇年の深さを、切々と訴えていて感動的でした。最初は誰でも、ど

（裏面につづく）



郡司さん(手前)の一言ひと言に真剣に聞き入る家族会メンバー。(5/17)

国鉄「分割・民営化」阻止

関西新空港絶対反対をかかげ、5/19 大阪府 泉佐野市議選 国賀氏堂々当選



五月十九日、大阪港に面した大阪府泉佐野市の市議選挙において「関西新空港絶対反対」をスローガンにかかげた国賀祥司（こくがよしじ）氏が見事に当選をかちとりました。国賀氏は、新空港建設に一貫して反対運動の先頭にたつて闘うと共に、中曽根の戦争政治を許さない立場から、三里塚・動労千葉の闘いと連帯し闘ってきた人です。

中曽根の「国鉄」―「三里塚」攻撃の中で「関西新空港」もギリギリの決戦局面をむかえています。「関西新空港」は、日本では初めての巨大な海上軍事空港で四千メートル滑走路を二本も備えた二四時間フル使用できる巨大な空港で、これが完成すれば、直ちに米軍艦載機夜間離発着訓練基地にされるばかりか、フィリピン・韓国などのアジア侵略にむかって自衛隊機が必ず飛びたつ軍事空港といわれています。

さらに、この軍事空港建設に役かっているのが関西財界であり、空港建設でボロもうけしようとする目論んでいるのです。このような背景のもとで、様々な妨害、イヤガラセがかけられ、それをはねのけ勝利した意義は大きい。

新空港おびざ元の泉佐野市議選 反対活動家が当選

泉佐野市議選結果表

選挙区	候補者	得票数	当選
第一区	国賀祥司	1,234	○
第二区	山田太郎	987	○
第三区	田中花子	765	○
第四区	佐藤一郎	543	○
第五区	鈴木美穂	321	○
第六区	高橋健二	109	○
第七区	中村由美	87	○
第八区	渡辺隆夫	65	○
第九区	小林千代	43	○
第十区	清水大輔	21	○

全組合員 家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ！

ここでもいる、ごく普通の女性でしたが、ある日突然、飛行場にするので立ち退けといわれ、そこから闘う二〇年がはじまったといっておられました。結婚するまでは農業をやったことがなく、作物の作り方も人に聞いたり新聞や本を読んだりの連続で、やっと子供の代に譲れるというときにお上のこの仕打ちにはがっかりして、もうどうしようもなかったといっておられました。

「ハンペンテ」という中国の言葉があるそうです。これは、世界の人口の半分は女性である、だから闘う半分も女性であるという意味だそうです。すばらしい言葉だと思いませんか？

女性は、家庭の家族の中核（中心・核心）でなければいけない。家庭の中核が根づいてしつかりしていればよい家庭が生まれ、よい家庭からは次代を担うよい子が生まれ、よい社会、よい世界が生まれるというわけです。

「天水」のおはなし



用水の話も出て、一年中、何時でも農業用水がつかいたいとき、使いたいだけ使えるようにしてくれると話をもってきたそうですが郡司さんの田畑のあるところは他のところより低地で雨が降ろうものなら稲は葉の先まで水につかってしまい、この状態が続くとせつかく植えた苗は腐ってしまうそうです。ただでさえ要らない水なのに反対にこつちが水をもつていってもらいたいと言って追いついたといっていました。自分の田に、自分が入って田植えをしていたら機動隊がきて四人がかりでかかえて連れ戻されたそうです。欲しいとき、欲しいだけ何時でも水が使えると聞くと大変便利なことのようにですが、農作物がどこの家でも同じにできてしまい、市場では買ったたかれて農作の割には賃金は安くなるそうです。「天水」天からの水、つまり雨に頼れば、その年のその家々の出来、不出来がいろいろと出て、豊作の家もあれば不作の家もあるという具合で、豊作貧乏などにはならないということだそうです。

「オタマジヤクシ」のおはなし

二〇年の闘いの中には、オタマジヤクシの共食いのようなこともあったそうです。オタマジヤクシは、百匹が卵からかえっても自分が生きのこるために共食いをして無事カエルになるのは半分の五〇匹との

20年の闘いの経験を通して、自らの解放、闘いと生活、家族ぐるみの闘いということの、意味をわかりやすく話される郡司とめさん。

ことです。昨日まで一緒に反対運動をしていた仲間が公団の舌と金の力で仲間を裏切り、離れていく様は、まるでオタマジヤクシと同じです。これは今の国鉄の職場でも言えていることです。自分だけが残ろうとして、上の人の言うなりに動き仲間の行動をチクるなどのオタマジヤクシ顔負けの行為があるそうです。関東大震災以上に揺れている国鉄を労働者の力でたて直そうなどは毛頭考えず、ただ、自分だけが生き残ろうともがいているのです。去るも地獄・残るも地獄の未来がまつているのも知らないで、信じがたいことです。なぜなら、オタマジヤクシは生物分類をすると両生類に属するのです。Dさんの娘さんに教えてもらいました。四肢動物の最も原始的な生物と載っていました。人間は、生物の中で最も高等な生物なのです。この非常時にオタマ君のまねをしてたわむれている暇はないはずです。オタマ君が株を奪わないでくれと迷惑がっていると思います。



闘いの中に必ず婦人行動隊の笑顔が。家族ぐるみの闘いが、三里塚20年闘いの勝利を支えている。

三里塚に学び、「闘いの半分を担う」家族会に

郡司さんには農繁期で忙しくて、お疲れのところをそれも夜分、おこしいただいて本当にありがとうございました。普通は、隠居をしてやさしいおばあちゃんにいられるところを空港反対を唱えて、年老的な女性がなぜ、全国を飛び回らなければいけないのでしょうか。

中曽根さん、女性・老人・労働者をこれ以上泣かさないう方がよいと思えますがね。天水ではなく天罰があたりますよ。

郡司さんには、これからも御身体に気をつけて、がんばっていただきたいと切に願っております。

（天台家族会Eさん・寄稿）